

戦前台湾における天理教伝道の全体像

天理教信者における内地人と本島人の割合

戦前の台湾における天理教は、総じてどのような特徴を持っていたのだろうか。橋本武は、戦前の台湾における天理教についての論考「台湾伝道概観」の中で、教会の名称、設立年、系統、設立地域を整理しながら、日本統治期台湾における天理教布教を概観し、その特徴の1つとして邦人伝道、つまり主な布教対象が現地人（本島人）ではなく、在留邦人（内地人）だったという点を指摘している。しかし、「教会」のみの記録を整理しただけでは見えてこない側面がある。たとえば、教会の所在地は台北市が4割以上を占め、内地人が多く住む都市部に集中している。しかし、当時の教会長はすべて内地人が務めていたことから、教会設立の記録だけに基づいて戦前台湾における天理教伝道の全体像を描くことはできない。そこで本稿では、『台湾総督府統計書』という統計資料を参考に、戦前の天理教伝道の全体像について探ってみよう。この統計書は、第一統計書（明治30年分）から第四十七統計書（昭和17年分）までのもので、台湾総督官房調査課によって発行された。これは、天理教が信徒に関する明確な基準を有していないことから、表面的な傾向を示すものに過ぎない。そのまますべてを実数として信用することはできないものの、ここから日本統治期を総じて考察した場合の概略的な傾向について推論することができるだろう。

この統計資料には各宗教別の内地人と本島人の人数が記載されており、各年度を整理すると、台湾における天理教信者の本島人と内地人の割合は図1に示したようになる。天理教信者の内地人と本島人が占める割合の変容について、黄智慧は「大正に入ってから、台湾では『台湾二世』（溥生）の増加によって日本からの移民が定住化し、移民社会を形成した。この頃から、一中略一徐々に布教の矛先を内地人の方に向け始めた。大正期以降にできた、台湾人を布教対象とする教会はただ2カ所であり、それは内地人の混じらない、本島人信者だけの教会となった。すなわち、大正期以降、台湾での天理教教会は、内地人の教会と台湾人の教会が、はっきりと区別されるようになった」と指摘している。そして、徐々に布教の対象を内地人の方に向け始めた理由について、今後の研究を待ちたいとしながらも、これまでの文献資料に基づいて「国語教育が浸透するにつれ、台湾全島に日本語が普及し、台湾語による布教は不必要だと思われ始めた。また、文化の差異の面からも、台湾人の生活や服装が粗末で不潔な印象を与えた」と説明している。

橋本武や黄智慧の主張を整理すると、戦前の台湾における布教は、当初は現地の台湾人を対象に布教をせざるを得ない状況であったため、現地人信者獲得に努力していたものの、国語である日本語教育の普及によって台湾語による布教の必要は徐々になくなっていき、さらに文化的理由で本島人と内地人との差異が生じたことから、本島人に布教する教会は2カ所にどまってしまった。そのために、戦前の布教活動は台湾に居住する内地人を主に対象にしていたということになるのだろう。

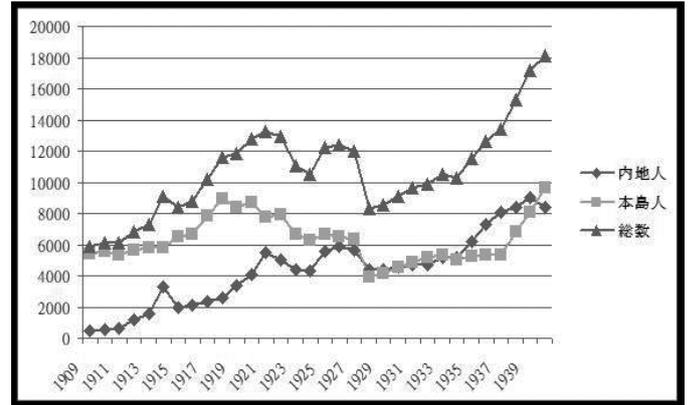


図1 日本統治期台湾における天理教信者の内地人・本島人の割合 (筆者作成)

台湾総督府統計資料に基づくならば、図1が示すように、たしかに台湾において天理教の布教が始まった当初は台湾人信者がその多くを占めていたが、徐々に内地人信者も増加し、1928（昭和3）年にはその数が逆転する。しかし、だからといって信者が内地人に大きく偏っていたとはいえない。また、黄が指摘するような、台湾人の教会と内地人の教会が区別されたという指摘も、本島人の教会が2カ所だけなら、本島人信者が数千人に及ぶことはやや不自然に思われる。つまり、これらの統計資料から指摘できることは、戦前の台湾における天理教は本島人信者も内地人信者も同じくらいいたということである。

では、このような橋本や黄の見方と統計資料との矛盾をどのように理解すればよいのだろうか。筆者はその鍵は布教所と本島人エリートが存在にあると考えている。すでに述べたとおり、戦前台湾で設立された教会の教会長はすべて内地人であった。そのため、台湾の天理教における幹部が内地人で占められていたことにより、台湾における布教はほとんど内地人を対象にしたものに止まっていたという評価につながるのではないだろうか。これは本島人エリートの養成が不十分であったことの裏返しでもあると思われる。つまり台湾における天理教の活動が内地人幹部に率いられており、またさまざまな意思決定の会議などにも本島人が参与することが極めて限定的であったのではないかと考えられるのである。それでは、内地人と同じくらしい人数がいた本島人はどのような信仰や布教活動をしていたのか。筆者は、彼らは教会ではなく、布教所や信者宅などを布教の拠点として、本島人から本島人へと布教を展開していたと考えるのである。しかし、これまでの研究では教会だけに注目されてきたため、教会ではない布教所や信者宅などの活動の実態をきちんと把握することができなかったのではないかとと思われる。

[参考文献]

- 黄智慧（1989）「天理教の台湾における伝道と受容」『民族学研究』54（3）292～308頁。
橋本武（1951）「台湾伝道概観」『宗教文化研究所報』4（3）9～11頁。